

モデル地区における下水調査について(中間報告)

調査概要

- 国土交通省では、9地方公共団体の11箇所の下水処理場において、令和2年11月あるいは12月より、週1回程度の頻度で下水処理場へ流入する下水等を採水し、下水中に含まれる新型コロナウイルス濃度について、日本水環境学会COVID-19タスクフォースが作成した「下水中の新型コロナウイルス遺伝子検出マニュアル(暫定版)」に示されている手法により分析を実施。
- 現時点で分析結果が得られている93検体中、ウイルス濃度の定量値が検出できたのは1検体であり、50検体はウイルスが検出できたものの定量下限値未満で、42検体からはウイルスが検出されなかった。

分析結果

検体数	分析結果		
	未検出	定量下限値未満	定量値
93	42	50	1

まとめ

- 現時点では、市中感染状況と下水中の新型コロナウイルス濃度の明確な相関が見られないため、引き続き、調査分析を継続する。

【参考】 下水中の新型コロナウイルスからの感染リスクについて (出典：米国CDC Q&A)

- ・ 現時点では、適切に設計および維持された下水道システムを介して新型コロナウイルス感染症に感染するリスクは低いと考えられている。
- ・ 未処理の下水から新型コロナウイルスのRNAが検出された報告があるが、データは限られているものの下水中のウイルスの感染性を示す証拠は殆どなく、下水への暴露により発症した事例は報告されていない。